資 料

育雜 (Japan. J. Breed.), 37 : 109~112 (1987)

夏作物・園芸作物等新品種の紹介

—昭和 61 年農林水産省登録—

(Ⅱ) 野菜・花き

New summer crop cultivars registered by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries in 1986 : (Ⅱ) Vegetables and Ornamental Crops

高 柳 謙 治

(野菜・茶業試験場, 三重県安濃町, 〒 514-23)

Kenji TAKAYANAGI

National Research Institute of Vegetables, Ornamental Plants and Tea

Ano, Mie, 〒 514-23

KEY WORDS : New cultivar, onion, winged bean, lily, tulip

昭和 61 年 6 月 30 日付けで農林水産省命名登録となった作物新品種のうち, 野菜・花きの新品種について, 農林水産技術会議事務局の資料「昭和 61 年農林水産省育成農作物新品種 (夏作物・園芸作物等)」をもとに, 新品種の来歴, 特性概要, 新品種名命名の由来について紹介する.

The following new cultivars of vegetable and ornamental crops were registered by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) on June 6, 1986. Their descriptions are summarized herewith based on the publication "The New Crop Varieties released by MAFF (Summer Crops and Horticultural Crops, etc.)" issued by the Secretariat of the Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council.

たまねぎ (Onion)

ツキヒカリ (たまねぎ農林交 3 号) 旧系統名: タマネギ月交 7 号, 農林水産省北海道農業試験場育成. 1974 年に米国 Wisconsin 大学より導入した乾腐病抵抗性, 高貯蔵性の雄性不稔系統 W 202 A を種子親とし, 札幌黄 (坂野系) から選抜した S 6010 を花粉親として, 1980 年に交配した単交配一代雑種である. 1983 年から月交 7 号の系統名を付して生産力検定並びに系統適応性検定試験を開始し, 1984 年からは現地試験を実施してきた. 球形は甲高で肩張りが良好である. 球の肥大性, 球揃いは優れ, 平均一球重は 190 g 前後で, 規格内収量, 総収量ともに高い. 表皮はやや厚く, 裂皮, 皮むけしがたい. 表皮色は黄銅色で, 色・光沢ともにフラヌイより勝る. 乾腐病抵抗性が高く, 貯蔵性も高い. 萌芽, 発根, 茎盤部突出はフラヌイと同程度で, 通常の貯蔵施設では 10 月より 4 月上旬まで貯蔵が可能である. 草丈はやや低く, 生育後半にかけて球の肥大が旺盛なため, 倒伏期はフラヌイより 2 日前後遅い. 特に初期生育の遅れる地帯では枯葉期が 2 日以上遅れる場合がある. 春まき露地移植用品種として北海道一円, 特に道央地域に適する. 育成地の地名「月寒」の月と, 球形が満月のように丸く全体に優れるということにちなんで命名された.

Tsukihikari (Onion Norin Ko 3) : Hokkaido Nat. Agr. Res. Stn., Hitsujigaoka, Sapporo. Hybrid variety, W 202 A × OPP-1. Medium-late maturity. Resistant to basal rot (*Fusarium*

oxysporum f. sp. *cepae*). Uniform size and shape. High yielding, relatively large, high globe shape, firm bulbs. Long storage. Heavy yellowish-brown, glossy and thick outer scales that adhere well through storage period. Good storage quality. Adapted to Hokkaido onion area (longday onion areas).

OPP-1 (たまねぎ農林交親 4 号), 旧系統名: S 6010, 農林水産省北海道農業試験場育成. 球品質に優れ, 耐病性で貯蔵性の高い F_1 品種を育成するための花粉親を育成しようとした. 1976 年に札幌黄 (坂野系) から球品質の優れた母球を選抜し自殖系統を作り, 1977 年乾腐病の汚染圃場で抵抗性の検定を行い, 良質・耐病性の系統を選抜し, 1980 年に S 6010 の系統名を付して交配親の能力を検定した. その結果, 月交 7 号 (ツキヒカリ) の花粉親として, W 202 A との組合せ能力が高かった. 乾腐病に対しては北見黄 (札幌黄系の品種) より強い. 球形は甲高で肩張りが良好である. 表皮の厚さは北見黄より厚く, 裂皮・皮むけがしがたい. 表皮色は黄銅色で, 色・光沢ともに北見黄より勝る. 収量性は北見黄と同程度. 倒伏期, 枯葉期は北見黄より 2~4 日遅く中生の晩に相当する. 萌芽, 発根, 茎盤部突出ともに北見黄より半月ほど遅く, 貯蔵性に勝る. 葉先枯れに対しては感受性, 乾腐病に対しては北見黄と同程度である. 道央の採種地域で, 札幌黄の栽培に準じて, 春播き露地移植栽培を行う. 白斑葉枯病の防除が必要. F_1 採種に当たっては株数を若干多く植え込む. 品種名とした OPP-1 はタマネギ花粉親 (Onion Pollen Parent) 1 号の意味を表わす.

OPP-1 (Onion Norin Ko Oya 4): Hokkaido Nat. Agr. Res. Stn., Hitsujigaoka, Sapporo. Pollen parent of Tsukihikari. Selected from Sapporo Ki-Sakano line in 1976. Medium-late maturity. Tolerant to basal rot (*Fusarium oxysporum* f. sp. *cepae*). Susceptible to botrytis leaf blight (*Botrytis squamosa*). High yielding, relatively large, high globe shape bulbs. Storage two weeks longer than Kitami Ki (derivative of Sapporo Ki). Heavy yellowish-brown, glossy, and thick outer scales. Adapted to Hokkaido onion areas (longday onion areas).

しかくまめ (Winged bean)

ウリズン (しかくまめ農林 1 号), 旧系統名: 石垣 1 号, 農林水産省熱帯農業研究センター育成, 1976~1982 年に西オーストラリア農務局等から 49 系統を導入し, 亜熱帯の夏季の長日・高温条件下で開花・結莢する極早生系統 (長日不感応性または中日性系統) の選抜育種を行った. そのうちマレーシア原産の M-13-1 から純系分離した系統が, 導入母材に比べて早期開花性の点で極めて優れていたもので, 石垣 1 号の系統名を付して, 1984 年より育成場所における特性検定および地域適応性についての検定を実施してきたものである. 葉は中型で緑色の心臓形, 花は淡青色の蝶形花である. 葉に対して莢の割合が大きく, 莢が葉に完全に覆われることが少ない. 春播き栽培での到花日数は約 70 日で, 亜熱帯における長日条件でも開花し, 既存の早生系統である UPS-31 に比べて 3~4 か月早く開花する極早生系統である. 若莢収量は 1.0~3.1 t/10 a で, UPS-31 の 0.5~1.1 t/10 a に比べて多収である. 若莢は淡緑色で少し湾曲し, 断面はやや扁平である. 収穫適期は開花後 12~13 日目で, 莢の長さは 10~13 cm, 重さは 7~10 g である. 種子は淡褐色, 斑紋はない. 100 粒重は 28 g 程度で, 比較的軟い. 我が国亜熱帯地域での夏野菜として, 春まき夏穫りに適する. ウリズンは沖縄の方言で「若夏 (4~5 月)」をさし, 夏に若莢を収穫できるという意味にちなんで命名された.

Urizon (Winged bean Norin 1): Okinawa Branch of Tropical Agriculture Research Center. Selected from M-13-1 of Malaysian origin. The cultivar was able to produce young pods under longday and high temperature conditions in summer in the subtropics. In the spring culture, young pod production in summer was stable and the peak of harvest was observed from August to September. Total young pod yield ranged from 1.0 to 3.1 tons/10 a. The characteristics of the

cultivar are as follows; edible young pods are 10 to 13 cm in length and 7 to 10 g in weight; the color is light green, the shape is slightly bending; the section is semi-flat. Young pods are seldom hidden by leaves at the time of pod setting.

チューリップ (Tulip)

紅 輝 (チューリップ農林 14 号) 旧系統名: 砺波育成 79 号: 富山県農業技術 センター 野菜花き試験場育成. 1965 年にパウルリヒター×プリシマの交配後, 選抜・増殖した種間雑種である. 1983 年から砺波育成 79 号として, 育成場所における特性検定試験および地域適応性検定試験を実施してきたものである. 開花期は 4 月下旬で中生に属する. 花は一重咲, 倒釣鐘形の大輪である. 花色は鮮紅色で, 開花 2~3 日前のつぼみから鮮やかな紅色に発色する. 草丈・脚長ともに長く, 切花としての利用に適する. 主球の肥大性は中程度であるが, 分球性は大きく球根収量は多い. ただし, ほ場裂皮が出やすいので注意を要する. 促成適応性が高く, 8 月上旬に低温処理を開始することによって 12 月上旬開花が可能で, 切花品質が優れる. ウィルス病 (TBV) に対する抵抗性は強で, 球根腐敗病・褐色斑点病の発生は少ない. 本品種は球根生産では, 裏日本のチューリップ生産地全域, 促成栽培では, チューリップ切花生産地全域に適する. 命名は, 花色が輝くような紅色であることにちなむ.

Kouki (Tulip Norin 14): Toyama Vegetable and Ornamental Crops Research Station. Selected from a cross made in 1965, i.e. Paul Richter × Purissima. Characterized by vivid red flowers, good coloring of flower bud, mid-season flowering and outstanding ability for forcing. Excellent for cutting and bedding, with vigorous 40-50 cm high stems. Good bulb yielding ability, resistant to TBV and promising for tulip bulb-producing areas in the districts bordering the Japan Sea and tulip-forcing culture areas in Japan.

紫 雲 (チューリップ農林 15 号) 旧系統名: 砺波育成 80 号: 富山県農業技術センター野菜花き試験場育成. 1965 年にモダンタイムス×バレンタインの交配後, 選抜・増殖したもので, 1983 年から砺波育成 80 号として, 育成場所における特性検定試験および地域適応性検定試験を実施してきたものである. 開花期は 5 月上旬で晩生に属する. 花は一重咲, 円筒形の大輪である. 花色は白地に紫色の覆輪が斑点状に発現し, 咲き進むにつれて花卉全体が淡紫色に変化する. 草丈が高く, 茎葉が強いことから, 切花用および花壇用に適する. 主球の肥大性, 分球性ともに大きく球根収量は多い. ただし, ほ場裂皮が出やすいので注意を要する. 促成適応性が高く, 8 月上旬に低温処理を開始することによって 12 月中旬開花が可能で, 切花品質が優れる. ウィルス病球根腐敗病・褐色斑点病の発生は少ない. 本品種は球根生産は, 裏日本のチューリップ生産地全域, 促成栽培では, チューリップ切花生産地全域に適する. 命名は, 花色が白地に紫色の覆輪であることにちなむ.

Shiun (Tulip Norin 15): Toyama Vegetable and Ornamental Crops Research Station. Selected from a cross made in 1965, i.e. Modern Times × Valentine. Characterized by white flowers, edged with violet-blue, flowering off violet blue and late flowering. Excellent for forcing, outstanding for cutting and bedding, with vigorous 40-50 cm high stem. Good bulb yielding ability and promising for tulip bulb-producing areas in the districts bordering the Japan Sea and tulip-forcing culture areas in Japan.

ゆ り (Lily)

チャームピンク (ゆり農林 5 号) 旧系統名: ユリ久留米 1 号, 農林水産省野菜試験場久留米支場育成. 我が国のカノユリの主要品種であるうちだかのこに代わる大輪で, 花色・花容が優れる切花向きの品種育成を目標に, 1970 年, (カノユリ×タメトモユリ) の 1 系統 (353 タメ-1) を母とし, ササユリの血を受け継いでいるピンクグローリーを父とした種間交配を行い, 雑種胚を培養し

て得た個体群から選抜したものである。1983 年からユリ久留米 1 号として地域適応性検定試験を実施した。開花期は、うちだかのこより 1 ヶ月早い 6 月下旬から 7 月上旬である。花色は鮮明な桃色でうちだかのこほぼ同じであるが、はるかに大輪で、花卉周辺部の白覆輪が明瞭である。また、花卉上に散在する斑点の色が淡くかつその数が少ないことから、明るい印象を受ける。花径はうちだかのこの 2 倍近い約 18 cm の大輪で、花型は平開型、花向きは横向きとなる。花蕾着生様式はササユリに似ており、切花に適している。さらに、花柄が長く硬いので枝切りとしても利用できる。球根は単芽球でも 200 g 以上になる大球性で、りん片のしまりが良く、貯蔵・輸送性が優れる。球根の増殖は、りん片繁殖によって容易に行うことができる。葉枯病には強く、ウィルス病の発生は認められていない。切花栽培では、遅植え等による発根不良が生育期の水分不足が原因で、葉焼け症が出ることがあるので注意を要する。本品種は球根生産ではカノコユリ系品種の栽培地全域、切花生産には低温感応不十分になる鹿児島南部島しょ部および沖縄県を除けば広く全国に適する。命名は、花色が明るく、強い印象を与える花容を持ち、切花草姿も魅力的であることにちなむ。

Charm Pink (Lily Norin 5) : Vegetable and Ornamental Crops Research Station, Kurume. Selected from a cross made in 1970, i.e. (*Lilium speciosum* × *L. platyphyllum*) × Pink Glory. Characterized by strong purplish pink flowers, marked with crimson spots, flower diameter larger than in *L. speciosum*, recurved petals and long peduncles. Flowering period from June to July, outstanding for cutting and stem cutting, good storage and shipping quality of bulbs. Promising for lily bulb and cut flower producing areas except the southernmost area of Japan.

ひのはな (ゆり農林 6 号) 旧系統名 : ユリ久留米 4 号, 農林水産省野菜試験場久留米支場育成。ユリの中で最強とされるキカノコユリ並の強健性を有し、広く我が国の栽培条件に適したカノコユリタイプの品種育成を目標に、1972 年、遠縁の異節間組合わせであるカノコユリとキカノコユリの交雑を、混合受粉法と胚培養を用いて行った結果得られたものである。1983 年からユリ久留米 4 号として地域適応性検定試験を実施した。開花期は 7 月上旬で、対照品種ブラックビューティより 10 日程早く、うちだかのこより 25 日以上早い。球根貯蔵による抑制栽培でも、5 月定植の場合、約 70 日で開花に至り、開花率は高く、着花数も多い。花色はブラックビューティに似た濃赤紫色の地色であるが、斑点の色が淡く、白覆輪が花卉全体におよび際立った対比をなす。花径はカノコユリ型の反転の大きい中輪花で、約 9 cm である。花卉は厚いのでねじれが少なく、乳状突起は小さくて目立たず整った花容をしている。花蕾着生様式は 2 次分枝の多い複総状花序であるため、切花用には適さないが、多花性であるので、枝切りに適している。球根は腰高偏円形で、単芽球でも 300 g 以上になる大球性で、りん片のしまりが良く腐敗しにくく、貯蔵・輸送性が優れる。球根生産性は高く、りん片子球 1 作で約 50 g の中球、2 作で約 300 g の特大球が得られる。高温・乾燥が続く夏期においても、葉焼けやウィルス病徴がほとんど発現せず、キカノコユリと同等の不良環境耐性を示す。ウィルス病・葉枯病・球根腐敗病・ネダニに抵抗性で、病害虫の問題はほとんどない。本品種は生育のための低温が不足する鹿児島南部島しょ部及び沖縄県を除くユリ栽培地全域に適する。命名は、日本原産のカノコユリと中国原産のキカノコユリの和合の産物として育成されたことにちなむ。

Hinohana (Lily Norin 6) : Vegetable and Ornamental Crops Research Station, Kurume. Selected from a cross made in 1972, i.e. *Lilium speciosum* × *L. henryi*. Characterized by dark-spotted crimson flowers, edged with white, recurved petals, upto 15 flowers per stem. July flowering, vigorous growth, resistant to mosaic, botrytis blight, bulb rot, bulb mite. Good storage and shipping quality of bulbs. Promising for lily bulb and cut flower producing areas except the southernmost area of Japan.